



小郡と七夕のおはなし

小郡に伝わった天の川伝説

天の川伝説は中国が起源であり、海を渡って日本に伝わってきました。その中でも小郡には、とても早い時期に伝わったと考えられます。

当時の日本と大陸との外交ルートには、玄界灘を通るルートと有明海を通るルートがありました。

天の川伝説も、有明海から筑後川を通じて筑後地方の小郡に伝わったことが想像されます。

七夕の織姫と小郡の織物

昔の小郡にも、織姫と同じように機織りが得意な女性が多かったです。

927年に作られた『延喜式(えんぎしき)』という書物の中に、各地から朝廷に差し出す献上品の一覧について記載した部分があります。その中で、小郡を含む筑後の国の献上品は「米と織物」となっており、ほかでは肉や海産物が多いことに比べて、織物の割合が高くなっているのです。

当時の小郡でも織物が盛んであったことがわかります。

小郡で昔から行われていた習慣

・七夕スイカ
子の成長を願い、つる付きのスイカを小

学1年生がいる家庭に贈る習慣。
・七夕とそうめん

1年間の無病息災を願い、七夕の日に食べる。大崎ではお盆に仏壇にそうめんをお供えする習慣も。

★七夕神社★

大崎にある七夕神社の正式な名称は、「媛社(ひめこそ)神社」といい、地元では親しみを込めて「七夕さん」と呼ばれていました。その歴史は古く、肥前風土記(730年ごろ)にもその由来が記述されています。

織女神と媛社神を祭っており、とくに織女神は、その名のとおり機織りにすぐれた技能を持った神様と伝えられています。前述のとおり、布を織る仕事が女性にとって重要であった小郡において、女性の信仰を集めたと思像されます。

また、毎年8月6日から8日にかけて、大崎区七夕神社夏祭り実行委員会を中心に夏祭り(P5参照)が開催され、賑わいを見せています。8日に行われるお焚き上げには、全国各地から願い事を書いた短冊が奉納され、その数は約50万枚にもなります。

★牽牛社(けんぎゅうしゃ)★

七夕神社から宝満川を挟んだ対岸には、かつて牽牛社がありました。これは、七夕の故事にちなんで建てられたと思われ、一説には



毎年7月が近づくと、市内では短冊のかかった笹や、風鈴を目にする機会が増えます。小郡市がなぜ「七夕のまち」といわれるようになったのか、古くから縁のある歴史を改めて紐解きながらご紹介します。

★七夕の日に願い事を書く理由

天の川伝説が生まれた中国では、織姫と牽牛が出会う夜に、庭の中で酒やウリを供え、いる糸を7本の針に通して、星空の下で「功」の上達を祈る行事が行われていました。この「功」は、針に糸を通すことから、針仕事や機織りの技術であったと考えられています。

この技芸の上達を祈る行事が、色とりどりの短冊に願い事を書く、今の七夕の習慣にもつながったと考えられます。

★七夕はなぜ「たなばた」と読むのか？

「たなばた」の由来は、「棚機津女(たなはたつめ)」であると言われています。「棚機」は、機を織る機械を、「津女」は、女・娘を意味します。古代の日本にあった、女性が水辺の機織り小屋にこもって神様を迎える棚機津女の信仰と七夕の物語と技芸上達を祈る習慣が合わさり、今の「七夕」の形になっているのです。

1200年から1300年の鎌倉時代の建立との話もあります。

現在は、牽牛社は水害と周辺整備のため稲吉地区の老松宮に移され、合祀されています。



▲老松宮

小郡市・七夕プロジェクトの始動

このように小郡と関わりの深い「七夕」を地域のブランドとして確立し、活用した地域活性化に取り組むべく、平成30年度から「七夕プロジェクト」の取組が始まりました。

今年度はまず、7月・8月を「七夕月間」と定め、集中的に七夕イメージをPRし、定着を図ります。

次のページでは、「七夕月間」に開催されるイベント情報を一挙ご紹介します！

「出展」

「七夕ぼん」七夕の里づくり委員会
「七夕さん」七夕神社



▲七夕神社

★七夕月間イベント★

小郡七夕風鈴まつり

日時 開催中～9月末
会場 如意輪寺など、市内各所
問合せ先 (一社)小郡市観光協会 ☎72-4008



夏を無事に越せるよう「風鈴」に願いを書き、如意輪寺、七夕神社など、市内各所に飾り付けています。涼しげな色合いと音色で、暑い夏を美しく彩ります。また、7月17日(火)は、如意輪寺で「夏の太鼓」を開催。演舞や太鼓などの多彩な催しで、祭りを盛り上げます。

七夕神社の夏祭り

日時 8月6日(月)～8日(水)／午後6時30分～
会場 七夕神社
問合せ先



【祭りに関して】(一社)小郡市観光協会 ☎72-4008
【奉納に関して】七夕神社夏祭り実行委員会(田中)
☎090-3662-2398

※短冊奉納は8月6日午前10時～午後3時に持込みにて受付

たくさんの短冊と七夕飾りで、一年で一番華やぐ七夕神社。6日は、子どもみこしが大崎エリアを回る伝統行事が行われ、7日は多くの露店が登場し、ステージでは多彩なプログラムを用意。今年は隣接する運動公園で、市内の起業を目指す女性たちによるワークショップも同時開催します。8日午前10時から、全国各地から奉納された短冊のお焚き上げを行います。

小郡市民まつり

日時 8月25日(土)／午後1時～9時
会場 西鉄小郡駅前大通り
問合せ先 市民まつり実行委員会事務局(小郡市商工会内) ☎72-4121

小郡の夏を締めくくる恒例の祭りは、今年で41回目。駅前的大通りには多くの出店が並び、野外ステージでは「七夕伝説」など、さまざまなイベントが行われます。祭りの最後を締めくくる総踊りは、飛び入り参加もOK！

夢HANABI2018

日時 8月18日(土)／打上げ午後7時45分～9時
会場 小郡運動公園横宝満川河川敷
問合せ先 (一社)みい青年会議所 ☎72-8137(前日まで)

西鉄大保駅から徒歩15分ほどの宝満川河川敷で、約8,000発の花火が打ち上がり、夜空をドラマチックに彩ります。今年のテーマは「誇りある故郷へ」。水上仕掛け花火や、ハート型の打上げ花火など、趣向を凝らした花火で、いつまでも心に残る“故郷”の風景を演出します。市内外から大勢の見物客で賑わいを見せる当日、団体なら、ふれあい橋北側に設置される「スーパーシート」(有料)がお勧め。大迫力の花火を、テーブル席でゆっくり観賞することができます。なお、花火大会の翌日早朝から、会場のごみ拾いを行います。皆さまのご協力をお願いします。



【スーパーシート(特別観覧席)】

料金 1.8×7.2m区画(長テーブル2台付き)10万円
申込 7月31日(火)までに問合せ先にて受付(先着)

生涯学習センター25周年記念事業

「宇宙に夢中」×「LET's GO!アンビフェスタ」

日時 7月22日(日)／午前10時～午後4時
会場 生涯学習センター、文化会館
問合せ先 生涯学習課 ☎72-2111



隣接する2つの会場で、紙飛行機やバルーンアートなどのワークショップ、バザー、抽選会、宇宙飛行士・大西卓哉さんによる講演などを実施します。すべて入場無料です。

七夕えだまめ収穫祭

日時 7月29日(日)／午前11時～
会場 生涯学習センター
問合せ先 七夕えだまめを広める会
☎80-8170



5月にお祓いを受けた特別な種で大切に育てられた小郡産の枝豆「七夕えだまめ」の収穫祭。七夕えだまめの生産者直売をはじめ、新鮮な枝豆を使った料理コーナーでは、市内飲食店自慢の創作料理も多数登場します。そのほかにも物販やワークショップ、フリーマーケットが開催され、午後5時から絵本＆読み聞かせ＆即興演奏による楽しいステージも展開。バラエティ溢れる内容で、今年の収穫を祝います。